4　多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている

(1)　多様性がまちの原動力になっている

本市は、障がいの有無、性別、年齢差、国籍の違い、価値観・文化・習慣の違いなど、多様な人々から成っています。その傾向は、グローバル化の進展の中で、今後さらに急速に進んでいきます。私たちは、命への共感に基づき、その違いを受け入れ、理解し、ともに生きていく努力を重ねる必要があります。

違いを受け入れ、ともに暮らしていくことは、必ずしも容易なことではありません。

私たちは、コウノトリ野生復帰の取組みを進めるにあたり、異なった意見を持つ人々との対話を重ね、お互いの立場を理解したうえで粘り強く議論を重ね、再びコウノトリを大空に帰すことができました。環境経済戦略は、環境と経済の対立を克服するものとして考案されました。

まちや組織の中に多様な人々がいて、対話を通じて共感を育みながら違いを乗り越えていく習慣がまちの中に根付けば、まちや組織の活力となります。

同時に、多様性の存在は、社会経済の急激で劇的な変化が予測される中にあって、まちや組織の適応力を確保するうえで不可欠な要素となります。

互いの存在を当然のこととして大らかに受け入れ、折り合いをつけながら共生するまちを教育、社会、経済、文化などの活動の中で築いていきます。

▲障害福祉サービス事業所による手作り製品の販売

【関連する取組み例】

本市には、平成 29 年（2017 年）３月末で中国、フィリピン、ベトナムなど 23 カ国 592 人の外国人が暮らしており、国際化が進んでいます。（住民基本台帳）

市内の団体では、外国にルーツを持つ母親や子どもに対する日本語教育の支援や、市情報冊子の多言語化などの取組みが行われており、今後も継続した取組みが期待されます。

⑵　さまざまなつながりの中に、それぞれの役割が果たされている

人は、支え合いなしには生きていくことができません。そのことを私たちは、平成 16 年（2004 年）の台風 23 号災害をはじめ、各地のさまざまな災害の中で家族やコミュニティのつながりの大切さを実感し、学んできました。

つながりの中には役割があります。役割は他者からの期待であり、その役割を果たすことによって自身の存在意義を確認できる重要な機能を果たします。

本市内では、食農・環境・防災教育などのいのちの教育や被災地支援などのほか、不登校や引きこもりのための「居場所づくり」が実践され、さまざまな活動を通して若者の役割が実感できる場となっています。

また、市内 29 の地域コミュニティ組織では、「自分たちの地区は自分たちで守る」ことを基本に、地域づくりや課題解決のために、地区内のさまざまな人々が役割を持ち、連携して取組みを行っていくことが期待されます。

地区や図書館、文化芸術関連施設、市庁舎などのさまざまな場所において、障がいの有無、性別、年齢差、国籍の違い、価値観・文化・習慣の違いなどに関わらず、人々をつなぎ、居場所と出番を提供する仕組みや取組みを進めます。

▲「学びと居場所・出番づくりの場」となる
豊岡市立図書館